

THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

ロータリーは機会の扉を開く

Rotary Opens Opportunities

RI 会長 ホルガー・クナーク



2020~2021

ロータリーは地域とともに

富津中央RC会長 渡辺 務

国際ロータリー 第 2790 地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

No.2639 第24回例会 2021. 4. 15 晴

点 鐘：渡辺 務 会長

進 行：鎌田良子 SAA

ソング：我等の生業

お客様：梶山林継様

会長挨拶

渡辺 務 会長



本日のお客様紹介

本日は国学院大学名誉教授で富津市在住の梶山様をお迎えしました。

ようこそいらっしゃいました。どうぞ少しの間ですが楽しんでいただきたいと思います。また後ほどお話をいただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

さて一昨日の火曜日、新聞やニュースでデパートの高島屋が決算で最終損益339億円の赤字に転落というのを見ました。17年ぶりの赤字だそうです。

なぜこれに目が留まったかという、この高島屋

の現社長 村田善郎さんは私の高校の同級生だったからで、高校時代彼はバスケット部で背がすらすらとして端正な顔立ちで、学年でも一番のもて男でした。最近髪は毛も少なくなりすこし脂肪もついてきたようで様子が変わっていましたがそれでも昔の面影は残っています。慶応大学から高島屋に入り、若いころからドイツ赴任などを経験、私たちの中では出世頭で活躍しています。私とは違い学生時代から文字通り華麗な人生を送ってきた彼の近況を知り、同輩としてはちょっと寂しく感じます。

先日と少し話が重なりますが、私たち昭和36年生まれが大学を出て社会人一年生として働き始めたころはバブルの始まりの頃。イケイケどどんの右肩上がりの経済を謳歌した時代がありました。証券会社に入った同級生は入社2年目のくせに交際費300万円使ったとか武勇伝を聞いたこともあります。その後の若い人たちはそのバブル時代を知らず、右肩上がりの経済の経験が無い世代が社会の大半を占めるようになってしまいました。

時代にほんろうされるのを運が悪いと感じるか？または自分の経験値が上がると前向きになれるかは本人の考え次第。同輩にも若い世代にも、今の環境を精一杯生き抜いていてもらいたいとエールを送りたい気持ちです。

ちなみにこのデパート業界、どこも大変なようで、大丸や松坂屋、パルコを展開するJ、フロントリテイリング(株)も昨期の最終利益が262億円の赤字だったとの報道。新型コロナの影響がいろいろなところ

〒293-0043 富津市岩瀬 841-3
いち川旅館
Ichikawa ryokan
841-3 Iwase Futtsu-shi Chiba-ken,
293-0043
Tel. 0439-65-0177 Fax. 0439-65-0178
URL <http://www.futtsuchuo-rotary.org>



に大きく表れてきましたね。少しでも早いワクチン接種が求められるところですが、残念ながら日本はそれが遅れているようです。

富津市でも一般の接種開始は5月以降になりそうです。皆さんもうしばらくお待ちください。

幹事報告

岡田良弘 副幹事



2790 地区より以下の諸類が届いておりますので回覧致します。

1. 風の便り VO1.6
2. コーディネーターNEWS5月号
3. 地区大会記念ゴルフ大会の案内
4. ハイライト米山 VO1.253
5. アフリカ平和基金支援のお願い

卓話

しげつぐ 相山林 様



<現國學院大學名誉教授・更和八雲神社他十五社宮司 日本文化研究所所長 君津市文化財センター理事 神社本庁教学委員・顧問 千葉県神社庁長 蔡祈考古学会会長 等等御歴任>

「鏡と神道考古学について」

はじめに

古代の鏡は青銅のものが多く、青銅とは銅に錫を混ぜた合金で、錫が十数%で二十%までは達しません。この割合は時代によって異なり、製作者によっても変わります。その中には多少他の金属も混ざっており、鉛や銀が混入したり、鉄が混ざったりしています。銅だけですと柔らかすぎ、錫が入ると硬くなります。銅だけなら割れないのですが、錫が混ざれば割れます。



世界中見渡しても青銅の鏡が一番多いと思います。その他に鉄の鏡もあり、鉄も表面を磨けば、顔が写ります。鉄の鏡は時代にもよりますが、日本でもいくつか出ています。青銅の鏡に比べれば千分の一程度でしょうか。

石の鏡は世界的に存在しますが、日本ではほとんど見つかっていません。青銅の技術を知らない古い時代に、黒曜石を磨いて顔を写したという例が南米にもありますし、その他世界各地で発見されています。

現代ではガラスの鏡は当たり前のように使用されていますが、日本では中世に少しくヨーロッパから伝来します。しかし後には殆ど入ってこなくなり、幕末になってまた入手されます。今ではガラスだけでなく、ステンレス等の合金の鏡が相当あります。

それから水鏡があります。皆さんは自分の顔の方に光りを当てて水に移せば、だいたい写るのは御存知でしょう。カガミという字は通常「鏡」の字を書きますが、「鑑」という字も使われて、中国ではこちらの字のほうが古いのです。黒っぽい青銅器に水を溜めて、それに顔を写す字が「鑑」で、「鏡」の



方は水を使わないカガミを指すのです。

現代人は鏡を化粧に使用する例が最も多いのですが、全国の神社ではいまでもかなりの数の鏡が使われ

ており、神様の依代的に使用している場合もありますし、神前に鏡を飾っている場合もあります。神前鏡は、飾りなのか依代的に考えても良いのか、その点は微妙な判断になります。お神輿などに鏡が釣り下がっている例も、単に飾りとは言えないものもあります。

奈良の春日大社の御前の御簾に古くから何面かの鏡が掛かっているのは有名です。古代に大和の悪党どもが盗み、後から戻ってくるのですが、それが絵巻物になっています。「春日権現験記」(1309年奉納)に描かれていますから、それなりの古さがある訳です。春日大社の宝物殿で古い鏡の一部が展示されていますが、火災に遭って焼失したものもあります。大体は平安時代の作ですが、昔の作り方を踏襲しますので、奈良時代の形状をとっています。

御殿の中に鏡を多く設えているのは京都の北の天満宮です。本殿のみならず拝殿の柱にもたくさん掛けられています。顔の写る光る面が表で、こちらを前にして飾られていますので裏面は見る事が出来ません。形を見ますと時代が分かります。形は丸いか四角か、或いは五花や八花の花形で廻りが尖っている八稜鏡はちりょうきょうなどと呼ばれるものがあります。

柄の着いている鏡もあり、日本では室町時代くらいから柄が付き始め、江戸から明治にかけて多くなります。エジプトではかなり古い時代に柄のついた鏡が見つっていますが、中国では非常に少ないです。柄が付き始めると日本では丸い鏡にもち

おくりとって棒だけではなく抑えるような部分が付きます。後にはその持ち送りはなくなり、江戸時代の鏡にはありません。明治時代にはいって、ガラスの鏡が主流になっても柄鏡は残ります。一部四角い鏡もあり、それは懐に入れて持つてあるく化粧用の鏡です。懐中鏡とも呼ばれますが、男性用と女性用では少し異なり、男性でも必ず持つていたのでしょうか。小さなものは男性の髭剃り用です。なかなか凝ったものがあり、自分の好きなものを持つていたのだと思います。

鏡は必ずしも真っ平なものばかりではありません。凹んでいたり出っ張ったりしています。ご存じの通り車のバックミラーなどは出っ張っている凸面鏡です。凸面鏡は広範囲で写ります。玄関に円い鏡をぶら下げておいて、人が通ったかどうか見る鏡もあります。日本では室町時代くらいのものしか残っていませんが、古い凸面鏡も存在します。

凹んでいる鏡というのは滅多にないのですが、オリンピックで光を集める極端な凹みのある集光器などがあります。大陸の東北地区から半島軽油で日本列島に入ってきた列島で最も古い青銅鏡は、僅かですが凹面鏡になっています。最近上海で作られた贗作があり、何故それが偽物かという、僅かですが凸面になっているからです。発見されている物を見る限りは、古い多紐細文鏡で凸面の物はありません。鏡の形態はいろいろあるということです。

世界的に鏡に対する信仰があるのですが、日本人ほど鏡に対する思い込みが深い民族は他にいないように思います。中国大陸から日本に入ってきた鏡に対して日本独特の考え方で扱っていきます。単に化粧道具ではなく、特殊に考えていく。この点を特に注目してきたのが神道考古学で、私の恩師の大場磐雄博士は、各神社の宝物の目録を作るなど、いろんな事をやっています。大正末年に内務省の神社局、昭和十五年になると神祇院に所属し、神祇院の仕事と神宮の宮掌補、遷宮委員も兼務していました。昭和四年の御遷宮の頃、宮地直一せんせいのもとで神社考古学を始め、昭和十八年になりますと神道考古学と改名しています。

戦後の昭和二十三年頃に神道考古学が完全に

成立したといひましようか、「神道考古学論攷」という本を出しました。それは、精神文化的なものを中心にした考古学を見つめようという主意です。私はそれを受けて、祭祀考古学としました。大陸や半島などを含めた祭祀関係のものを見ていこうという考えから起こし、海外まで広げる意味でこの言葉を使いました。日本では神道考古学で通用しています。日本列島人と青銅鏡の出会い

何故、日本列島人かという、考古学の世界はなかなか慎重で、そのころはまだ「日本」はないだろうと指摘されることもあるからです。私は「日本」と使っても良いと思うのですが、列島とか、半島とか、はたまた大陸などと漠然とした言葉を使用しており、基本的には列島と言えば日本列島を表しています。青銅製の鏡が渡ってきた時代の初出は明確には分かりません。しかし、ある程度使用されてからお墓に埋められたと思料されるので、今のところ BC 二百五十年頃と言うのが自説です。これは人によって少しずつ異なります。私は割合と古く考えている方ですが、BC二百五十年頃のお墓に日本列島では鏡が出てきます。青銅製の鏡です。

—以下は配布資料をお読みください。—
《神宮司庁発行「瑞垣」245号神宮職員教養講座
講演抄録より転写》 (会報委員会)

卓話者御紹介

神子 恒 会員



ゴルフ部よりコンペのお知らせ

渡辺哲夫 ゴルフ部長



場所:鹿野山 GC 白鳥・天神

日時:5月17日(月) 8時集合 S;8:30

ニコニコ BOX

渡辺哲夫 親睦担当部長

相山林^{しげつぐ}先生にお越し頂き、貴重な古鏡に接し、また古代鏡(鑑)のお話をお聴きすることが出来て。渡辺会長 岡田良弘 渡辺哲夫 相川恵津子 小野恒靖 神子 恒 椎熊邦広*(及びお久振り、元気でした)

合計 9,000 円

出席報告

須藤 隆 出席担当部員

区分	会員数	出席	欠席	MUp	出席率
今回	35/34	22	12		64.71%
前回	35/32	20	12		62.50%
前々回	35/31	22	9		67.74%

